K-625

山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第15集

市内遺跡発掘調査報告書(6)

三嶋(みしま)遺跡の調査
長者屋敷(ちょうじゃやしき)遺跡の調査
清六清水(せいろくしみず)遺跡の調査
蛇崩(じゃくずれ)遺跡の調査　他

1998年

長井市教育委員会

市内遺跡発掘調査報告書(6)

三嶋(みしま)遺跡の調査
長者屋敷(ちょうじゃやしき)遺跡の調査
清六清水(せいろくしみず)遺跡の調査
蛇崩(じゃくずれ)遺跡の調査　他

平成10年3月

長井市教育委員会

序

この報告書は、平成９年度に国庫補助を得て実施した市内遺跡発掘調査の結果をまとめあげたものです。

本市には200箇所余りの遺跡が登録されておりますが、ほとんどの遺跡は地表面から採集した土器や石器をもとにしたり、聞き取り調査から表面踏査で確認したもので、範囲や性格・年代等は詳細に調査されたものではありません。しかしここ数年来、開発に係る調整や遺跡台帳整備の要因による調査で、遺跡の内容も表面的なものから一歩踏み込んで範囲・性格・内容もしだいに明らかになってきました。埋蔵文化財も点から線へ、線から面へと広がり歴史資料としての役割も備えるようになってきました。

このたびの調査では、致芳地区成田の三嶋遺跡において縄文時代前期の土器がまとまった状態で出土し、住居跡も見つかったことから約６千年前の大規模なムラの跡の存在が予想されます。また、豊田地区河井の蛇崩遺跡では大量の須恵器が採集され、丘陵の西斜面に試掘を行ったところ焼けた土や積み重なった須恵器が出土し、登窯の跡と推測されます。河井から今泉にかけての丘陵地帯にはこれまで数カ所の窯跡が発見されていることから、当地区は須恵器の一大産地帯と推定されます。

このように毎年限られた調査件数のなかで新しい発見があり、記録として残っていない先人の足跡と出会い、新たな歴史が書き加えられています。

最後になりましたが、本調査にご協力いただきました関係各位ならびに悪天候のなか調査に参加いただきました地元の方々に感謝申し上げるとともに、本書が埋蔵文化財に対する理解の一助となれば幸いに存じます。

平成10年3月

長井市教育委員会
教育長　奥　山　晃　二

例　　言

1　本報告書は、長井市教育委員会が国庫補助を受けて実施した平成９年以降開発事業における調整ならびに遺跡台帳整備に関する市内遺跡発掘調査報告書である。

2　事業期間は平成９年４月１日から平成10年３月31日までである。

3　調査体制は次のとおりである。

調　査　員　岩崎　義信（長井市教育委員会文化課主査）
調　査　員　神尾　昭利（長井市教育委員会文化課主任）
調査参加者　青木　藤一　安部　国蔵　飯沢　昭二　伊沢　甫
尾形　良助　蒲生　喜一　青木　幸衛　川崎九兵衛
菊地　慶吉　桑原　甚一　小島　敏雄　斉藤　定男
斉藤　惣吾　佐々木豊作　佐藤　賢一　佐藤伸太郎
色摩久之丞　鈴木　正七　鈴木　文二　鈴木　弘
鈴木与五右門　孫田　邦夫　孫田　晋助　孫田　長市
孫田　八郎　孫田弥太郎　高世　昭司　高橋　久助
高橋　信一　玉置　吉次　別府嘉右エ門　横山　進
横山四十二　渡部　栄一　渡部　秀夫
事務局長　渋谷源一郎（長井市教育委員会文化課長）
事務局長補佐　村上　和雄（長井市教育委員会文化課補佐）
事　務　局　員　岩崎　義信（長井市教育委員会文化課主査）
事　務　局　員　神尾　昭利（長井市教育委員会文化課主任）
事　務　局　員　川崎世津子（長井市教育委員会文化課）

4　本調査にあたっては、次の方々のご指導・ご協力をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。
山形県教育庁文化財課、（財）山形県埋蔵文化財センター、旭電機株式会社長井工場、五十川地区、河井地区、致芳地区史談会、西根史談会、長井市建設課、下水道課、農林課、長井市古代の丘資料館

5　土器実測図・拓影図の縮尺は１／３で、挿図・付図の縮尺はスケールで示した。また、遺物写真のスケールは５cmを示す。

6　本書の編集・執筆は岩崎義信が担当し、拓本は尾形貞夫資料館長の協力を、挿図・図版の作成は川崎世津子の補助を得た。

目　　次

Ⅰ　調査に至るまで …… 1
　1．調査の目的 …… 1
　2．調査の方法 …… 1
　3．調査の経過 …… 1
Ⅱ　開発事業に係る発掘調査 …… 5
　1．的場遺跡 …… 5
　2．三嶋遺跡 …… 7
　3．長者屋敷遺跡 …… 15
　4．清六清水遺跡 …… 19
　5．新田遺跡 …… 21
　6．歌丸館跡 …… 23
Ⅲ　遺跡台帳整備に係る発掘調査 …… 27
　7．長者原遺跡 …… 27
　8．東峯山遺跡 …… 29
　9．蛇崩遺跡 …… 31

　報告書抄録 …… 35

挿 図 目 次

第1図　調査箇所位置図 …… 4
第2図　的場遺跡概要図 …… 5
第3図　三嶋遺跡概要図 …… 7
第4図　土器実測図・拓影図 …… 10
第5図　土器実測図 …… 11
第6図　長者屋敷遺跡概要図 …… 15
第7図　遺構配置図 …… 17
第8図　清六清水遺跡概要図 …… 19
第9図　新田遺跡概要図 …… 21
第10図　歌丸館跡概要図 …… 23

第11図　調査概要図 …… 24
第12図　土層断面図 …… 25
第13図　長者原遺跡概要図 …… 27
第14図　東峯山遺跡概要図 …… 29
第15図　蛇崩遺跡概要図 …… 31

図　版　目　次

図版 1　的場遺跡 …… 6
図版 2　三嶋遺跡 …… 8
図版 3　三嶋遺跡出土遺物 …… 12
図版 4　三嶋遺跡出土遺物 …… 13
図版 5　三嶋遺跡出土遺物 …… 14
図版 6　長者屋敷遺跡 …… 16
図版 7　長者屋敷遺跡出土遺物 …… 18
図版 8　清六清水遺跡 …… 20
図版 9　新田遺跡 …… 22
図版10　歌丸館跡 …… 26
図版11　長者原遺跡 …… 28
図版12　東峯山遺跡 …… 30
図版13　蛇崩遺跡 …… 32
図版14　蛇崩遺跡 …… 33
図版15　蛇崩遺跡遺物 …… 34

付表 1　調査工程表 …… 2
付表 2　埋蔵文化財ヒアリングおよび遺跡台帳整備に係る調査一覧表 …… 3

Ⅰ　調査に至るまで

1.調査の目的

本市では昭和57年から行った遺跡詳細分布調査を発端にし、市内全域にわたる分布調査を実施してきたところ約200箇所の遺跡を把握した。しかし、近年時代の要求に伴い、遺跡が存在する地域にも開発がおよぶようになってきたため、開発事業と調整を図り、事前に遺跡の保護にあたることを目的とした調査である。対象となる開発事業の内容は本市が行う公共事業、宅地開発をはじめとする民間開発事業が主体となる。

また、周知の遺跡は表面踏査で確認したものがほとんどであるため、遺跡の範囲・性格・年代等を明らかにする目的から試掘調査を実施し遺跡台帳の整備に勤めた。さらに開発事業との遺跡内容の係わりから立会い調査を行い記録保存にあたった。

2.調査の方法

調査は内容・目的から次の方法で実施した。

(1) 現地踏査

現在遺跡として登録されていない地域でも、開発事業予定区域が広範囲におよぶ場合は現地調査、聞き取り調査を実施し遺跡の有無の確認にあたり、開発事業と遺跡保護の調整にあたる。

(2) 試掘調査

周知の遺跡が開発事業実施区域に含まれる場合や、遺跡周辺に開発がおよぶ場合には坪掘りやトレンチ掘りを行い、遺構・遺物の検出にあたり遺跡の範囲・年代・性格を明らかにし、遺跡台帳整備の補筆にあたる。

(3) 立会い調査

周知の遺跡が開発事業区域に隣接する場合や、区域内に含まれるものの、その面積が少量で遺跡におよぼす影響が軽微な場合には、発掘調査を行い遺構・遺物の検出にあたり記録保存とする。

(4) 測量調査

中世の館跡など現況に掘跡や土塁等の遺構が残っている遺跡を対象に、縄張図作成にあたり現状での記録保存とする。また、遺跡台帳整備の目的から遺跡の地形測量を行い遺跡内容の補筆にあたる。

3.調査の経過

長井市教育委員会ではこれまで行ってきた分布調査から遺跡地図を作成している。この地図を開発を担当する関係機関に配布し、今後計画される開発事業にさきがけて埋蔵文化財に関するヒアリングを実施している。その結果を受けて、開発事業との調整を図るため必要に応じ前記の調査を実施した。また、宅地造成をはじめ民間開発についても随時受付を行っており、調整に係る事前調査依頼を受けて試掘調査を実施した。

なお、現地調査の行程は次のとおりであり、ヒアリングに係る調査の内訳は表2のとおりである。

調 査 工 程 表　　表1

日程 / 内容	平成9年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	平成10年 1月	2月	3月
試掘調査		■						■	■	■		
立会い調査										■	■	
測量調査									■			
報告書作成							■	■	■	■	■	■

埋蔵文化財ヒアリングおよび遺跡台帳整備に係る調査一覧表

事業種別		遺跡名	調査区分	種別	時期	備考
下水道整備事業に係る調査	1	的場遺跡	試掘調査 現地踏査	集落跡	平安時代	新規発見
	2	三嶋遺跡	試掘調査	集落跡	縄文時代前期	範囲変更
道路改良工事に係る調査	3	長者屋敷遺跡	試掘調査	集落跡	縄文時代中期	
	4	新田遺跡	立会い調査	集落跡	縄文時代	
	5	歌丸館跡	立会い調査	館　跡	中世	
その他の開発事業に係る調査	6	清六清水遺跡	試掘調査	集落跡	奈良時代	民間開発
遺跡台帳整備に係る調査	7	長者原遺跡	試掘調査	集落跡	縄文時代	
	8	東峯山遺跡	現地踏査 試掘調査 測量調査	集落跡	旧石器時代 奈良・平安時代	新規発見
	9	蛇崩遺跡	現地踏査 試掘調査	窯　跡	奈良時代	範囲変更

このたびの調査で、次の遺跡の内容が変更になった。

遺跡名	所在地	時期	変更内容
的場遺跡	長井市五十川字的場	平安時代	新規発見
東峯山遺跡	長井市河井字東峯山	旧石器時代 奈良・平安時代	新規発見
三嶋遺跡	長井市成田字三嶋	縄文時代	範囲の訂正　平成2年3月 長井市埋蔵文化財調査報告書第6集
蛇崩遺跡	長井市河井字広	平安時代	範囲の訂正　平成4年3月 長井市埋蔵文化財調査報告書第7集

第1図　調査箇所位置図

Ⅱ　開発事業に係る発掘調査

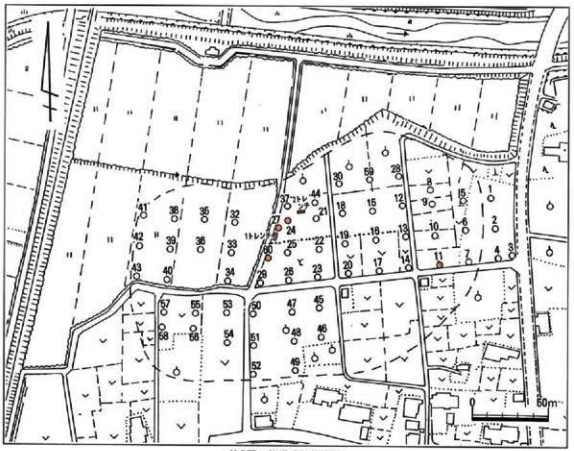
1.的場遺跡

調査方法　下水道整備事業に係る試掘調査である。本遺跡から昭和50年代に行われた基盤整備事業の時に須恵器がほぼ完全な形で出土しているため、当時の様子について聞き取り調査を行い、出土地点を中心に1×1mのテストピットを10m～20m間隔に59箇所設定し地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。また、遺物が出土したテストピットを拡張し1×5mのトレンチを2箇所設定し地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果　TP11・24・27・60、1・2トレンチからそれぞれ須恵器片が出土した。調査区南側と西側では耕作土直下に地山層が確認されたり、撹乱が見られ層序が一定していない。以前完形土器が出土した区域ではその傾向が著しく遺構・遺物は検出されなかったが、トレンチ設定区域では遺物の表採も可能で、包含層と思われる土質も確認された。

調査所見　このたびの調査区域では、土層の撹乱や地山層の検出状況から西側と南側が基盤整備事業で大規模な土砂の移動があったものと推定される。反対に北側・東側では撹乱も少なく客土を検出したことから遺跡が残っている可能性がある。出土した須恵器から平安時代前半の集落跡と推測されるが、道路を隔てた東側に酒町遺跡が存在することを考慮しながら、遺跡の範囲・性格を把握する必要がある。

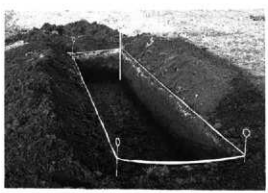
したがって下水道整備計画が確定した時点で、再度、開発と遺跡保護の協議が必要である。



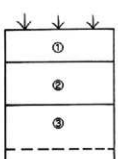
第2図　的場遺跡概要図

遺跡近景

調査風景



1トレンチ　全景



① 耕作土　15cm
② 茶褐色土　20cm
③ 暗茶褐色土　20cm

1トレンチ土層柱状図

出土遺物

図版1　的場遺跡

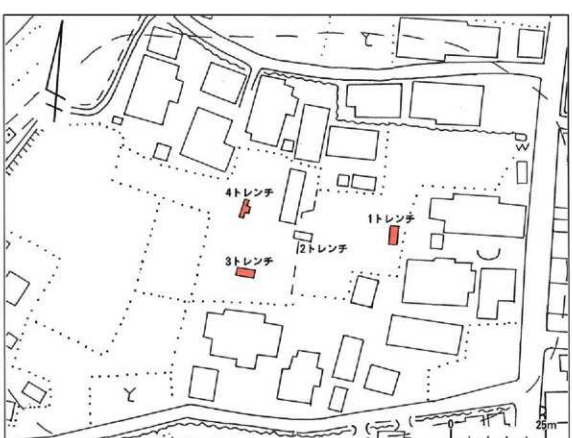
2.三嶋遺跡

調査方法　下水道工事区域がまだ確定していないため、調査可能な範囲に2×5mのトレンチを任意に4箇所設定し、地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果　1トレンチは層序も安定しており地山層までの土の堆積も深く、1mに達する。3層黒褐色土中位から厚手で胎土に繊維を含む土器片、磨石・石皿片が出土した。2トレンチは後世の攪乱も認められ基本層序は明確でない。3トレンチでは30～40cmで地山層に達する。地山層直上で縄文土器片や石器が出土し、暗茶褐色土の覆土をもつ遺構も確認した。4トレンチは3層黒褐色土（地表下約30cm）から遺物が多く出土し、一括土器も検出された。

調査所見　このたびは限られた調査面積であったが、貴重な成果が得られた。3トレンチで確認した暗茶褐色土の遺構は隅丸方形を呈し、遺構の縁に沿って直径約10～15cmの円形を呈する土色の異なったプランが等間隔に3箇所検出された。さらに本遺構の覆土から繊維痕を多く含む縄文土器や石匙・剝片が多く出土したことから、壁際に柱穴を有する縄文前期の住居跡と考えられる。4トレンチでは遺構は検出されなかったものの、出土した一括土器には器面全体にループ紋が施されており、縄文前期前葉の土器と考えられる。また、1トレンチでは地山層まで1mにおよぶことから凹地か溝、谷の存在が予想される。調査区域全体においても層序や包含層（当時の生活面）が安定しており、一括土器の出土や遺構の検出状況から、本遺跡の遺存状況は極めて良好であり、縄文前期の貴重な遺跡の存在が予想される。

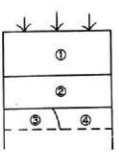
したがって、本遺跡に開発事業を計画するにあたっては充分な協議が必要である。



第3図　三嶋遺跡概要図

遺跡近景

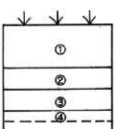
3トレンチ　遺構検出状況



① 耕作土　20cm
② 暗灰褐色土　15cm
③ 灰茶褐色土　10cm
（遺物包含層）
④ 暗茶褐色土
（遺構覆土）

3トレンチ　土層柱状図

一括土器出土状況



① 耕作土　20cm
② 暗褐色土　10cm
③ 黒褐色土　10cm
（遺物包含層）
④ 黒褐色土　5cm
（灰褐色土を
ブロック状に含む）

4トレンチ　土層柱状図

図版2　三嶋遺跡

遺物について

このたびの調査で出土した遺物は、一括資料の出土もあったが土器は小破片で全体の内容を把握するに至っていないが、出土土器はすべてにおいて胎土に繊維を含んでおり、文様の特徴から縄文時代前期前葉に属する土器である。

第1群土器（第4図、図版3）

撚糸圧痕文と刺突文で文様を構成する土器、非結束の羽状縄文で条の長さが短い施文をもつ土器を本群とする。

1類土器　2は横位に刺突文、斜位方向に撚糸圧痕で文様が構成される土器である。3～6は「ハ」字状の刺突文が横位に施文される土器である。4は地文としてループ文が、5・6は羽状縄文がそれぞれ施文される。7は口唇にそって弧状の刺突文が二重に施される土器である。その下位には地文としてのループ文が施される。8は口唇にそって縦位に刺突が施された羽条縄文を地文とする土器である。

2類土器　9～11は地文に結束をもたない羽状縄文が施される土器。条の長さは8～10mmと短いのが特徴である。

第2群土器（第4・5図、図版3）

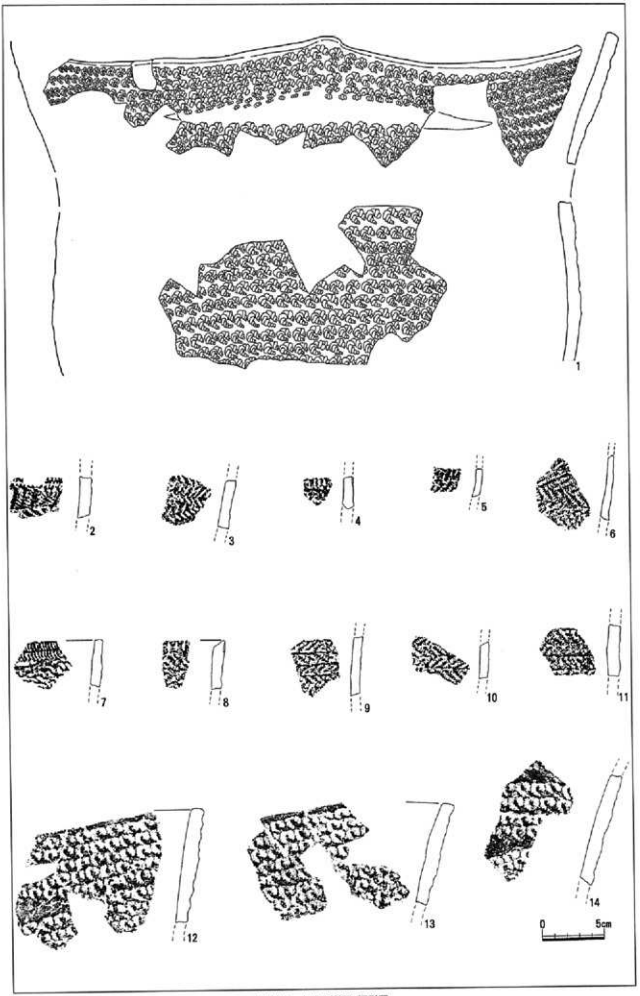
ループ文で文様帯を構成する土器を本群とする。1は大型の深鉢型土器で緩やかな4単位の波状口縁を有し器壁は厚いところで13mmを計る。口縁は外反し最大口径は約48cm（推定）に達する。頸部が緩やかに屈曲し胴部が膨らむ器形でループ文を地文とし、波状口縁下位には三角形の無文部を設け文様帯をつくり出している。12・13・15は口縁部破片で12・15には断片的ではあるが無文部が見られる。また、14・16～20は口縁部から頸部にかけての破片で無文部の文様帯が構成されている。21～24は胴部破片でループ文が見られる。本群は一括資料であるが胴下半部は未検出のため底部施文の有無は明らかではないが、口縁部から頸部にかけて文様帯を構成し、器全体にループ文が施される土器である。

第3群土器（第5図、図版4）

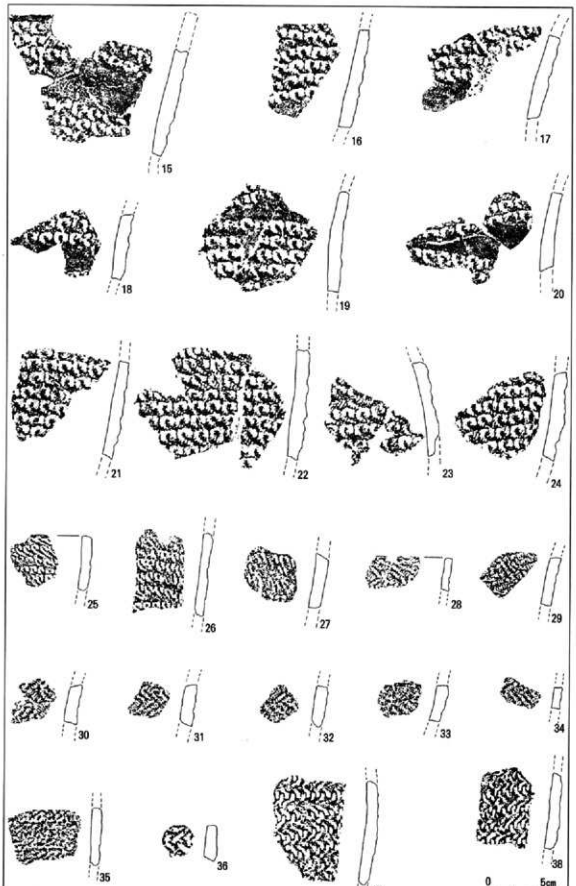
地文にループ文、羽状縄文、斜縄文をもつ土器を本群とする。25～27はループ文をもつが2群土器と比較すると器壁は薄く施文原体も小振りの土器である。28～34は非結束の羽状縄文が施される土器で、節の列から0段多条の原体で施文されたものである。35は同じ撚りの原体が結束された土器である。37・38は結束を有する羽状縄文であるが条の長さが短い。36は結束を有する羽状縄文土器片を利用した円盤状土製品である。

石器は石匙と石皿に特徴がある（図版5）。石匙は頁岩の縦長剥片を素材とし、背面において主要剥離面を大きく残し両辺沿いに剥離が加えられる。腹面は器長軸に直行するように押圧剥離が施され薄手の石器に仕上がっている。石皿は平面形が楕円形を呈し厚みのある軽い石材を用いており、両面に炭化物の付着が認められる。熱を受けた形跡がある。

以上、資料の細分を試みた結果、第1群土器は上川名Ⅱ式土器に並行する土器群、第2群土器は大木1式土器に比定され、第3群土器は1群土器、2群土器にそれぞれ並行する土器である。また、石器も上記土器群に伴う資料である。

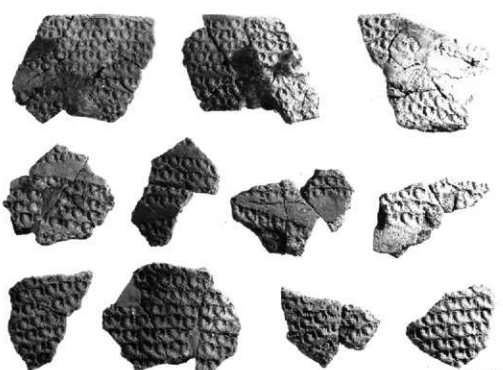


第4図　土器実測図・拓影図


15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
0
5cm

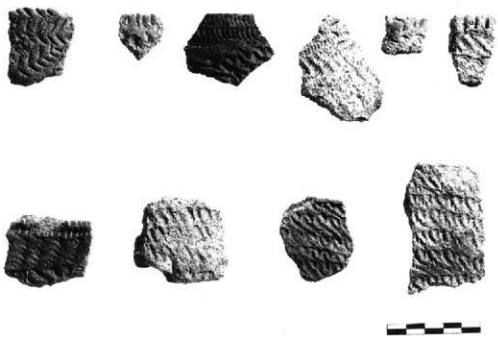
第5図　土器拓影図

出土土器

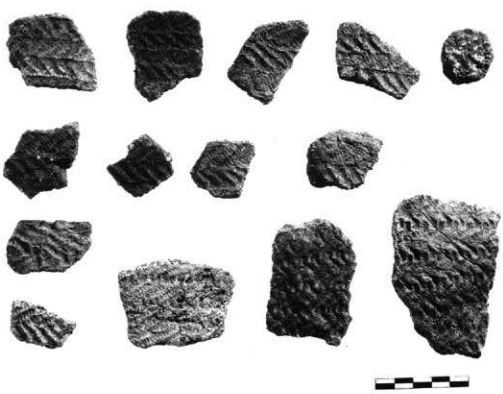


出土土器

図版3　三嶋遺跡出土遺物

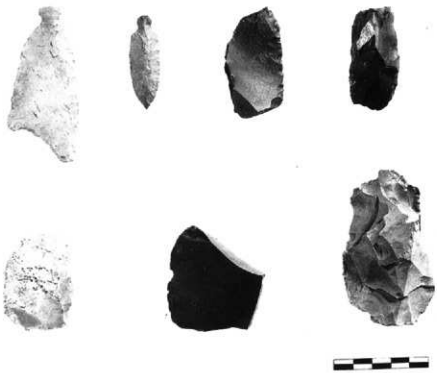


出土土器



出土土器

図版4　三崎遺跡出土遺物



出土石器

出土石器

図版5　三鳴遺跡出土遺物

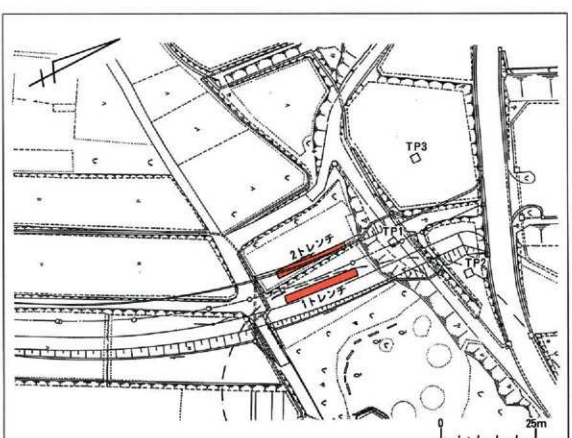
3.長者屋敷遺跡

調査方法　道路改良区域のなかで遺跡北側の低地水田面に2×2mのグリット3箇所を、また遺跡西端の台地に2×10mのトレンチ2箇所を設定し地山層まで掘り下げ遺物・遺構の検出にあたった。さらに検出した遺構の概略図を作成し記録で保存した。

調査結果　水田面に設置したグリットでは地表1～1.5mまで掘り下げたが遺物・遺構は検出されなかったが、遺跡の西端にあたる台地では1トレンチで直径20～50cmの土坑やピットを、またトレンチ南側では拳大から人頭大の礫が密集して検出された。2トレンチにおいても南側で拳大から人頭大の礫が密集して検出されたほか、包含層から一括土器が出土した。遺構周辺からも縄文土器片や石篦・剥片・砕片が多く出土した。

調査所見　1トレンチでは耕作土直下が包含層となり北側において幅約10cmの溝跡が南北方向に規則的に数条認められ、開墾時における重機のツメ痕と思われる。しかし、南側では集石も検出され遺存状況は良好である。2トレンチでも南側で集石が確認されたほか、北側でも包含層が確認され安定した状況を呈している。本遺跡は昭和52年～57年にかけて一部発掘調査が行われ、旧石器時代・縄文時代・弥生時代にかけての複合遺跡と報告された。このたび道路改良工事がおよぶ区域は調査報告から推定すると縄文時代の集石に隣接することから、2箇所のトレンチで検出した集石もその範疇に含まれる遺構と推測される。

以上のことから、本遺跡に道路改良事業がおよぶ場合は、事前に緊急発掘調査を行い記録保存が必要である。

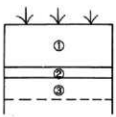


第6図　長者屋敷遺跡概要図

1トレンチ　全景

1トレンチ　遺構検出状況

1トレンチ　土層断面図

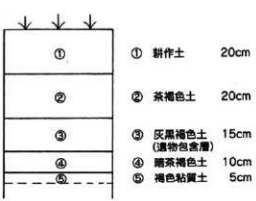


1トレンチ　土層柱状図

2トレンチ　全景

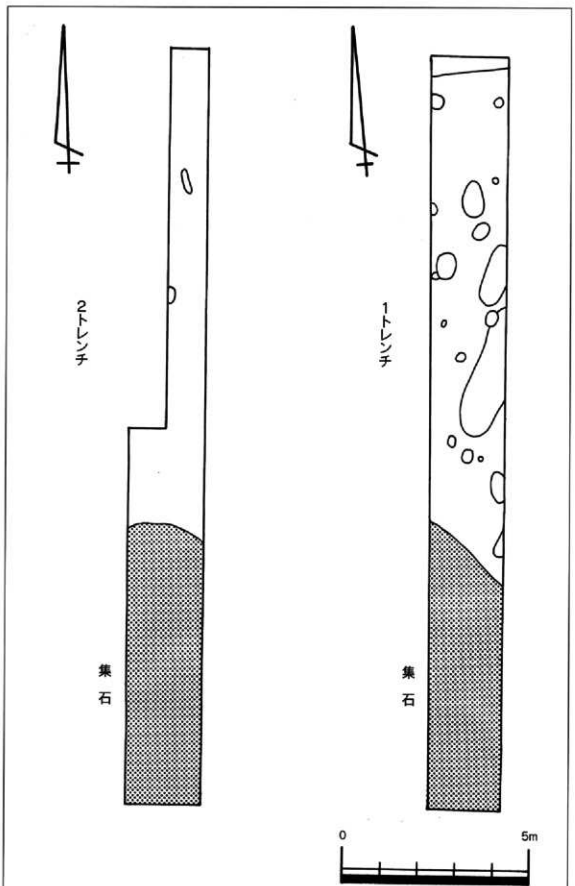
2トレンチ　遺構検出状況

2トレンチ　土層断面

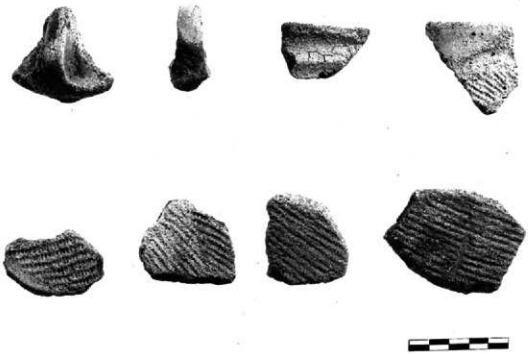


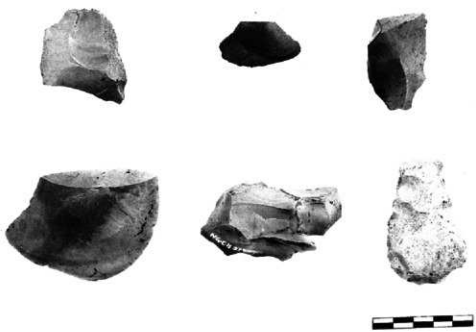
2トレンチ　土層柱状図

図版6　長者屋敷遺跡



第7図　遺構配置図





図版7　長者屋敷遺跡出土遺物

4.清六清水遺跡

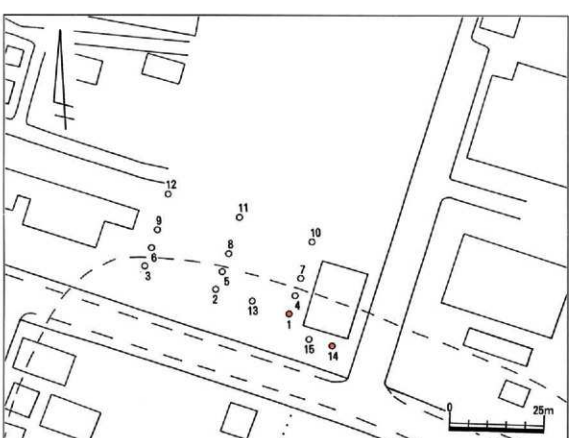
調査方法　民間企業の社屋造成に伴い開発予定区域に本遺跡が含まれるため、１×１ｍのテストピットを１０～２０ｍ間隔に１５箇所設定し地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。また、状況によりテストピットを拡張し同様の調査を行い埋蔵文化財の分布状況を把握し開発事業との調整にあたった。

調査結果　ＴＰ１から須恵器片が出土したため南側に２ｍ拡張し１×３ｍのトレンチとしたところ２層（茶褐色土）から須恵器片と土師器片が出土した。また、ＴＰ１４から土師器が出土した。

調査所見　このたびの試掘調査において２箇所の試掘坑から遺物の出土があった。ＴＰ１では２層（茶褐色土）より直径５０ｃｍの範囲から集中して遺物が検出されたため、茶褐色土を遺物包含層と仮定し、各テストピットの土層断面を詳細に観察した。しかし、茶褐色土はほとんどのテストピットで確認されたにもかかわらず遺物・遺構は検出されなかった。また、ＴＰ１４において遺物は出土したものの茶褐色土は検出されず、客土層からの出土であった。

以上のことから、当該調査区域は昭和６３年度の分布調査で把握したように遺跡北端にあたることが明らかになった。遺跡の中心部は現在東西に走る国道１１３号線の南側にあたるものと推定される。

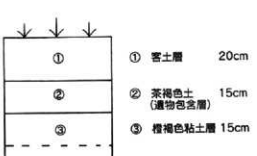
したがって、開発予定区域における遺跡の範囲は概要図に示したとおりであり、開発事業が実施されるにあたっては立会い調査が必要である。



第8図　清六清水遺跡概要図

遺跡近景

1トレンチ　土層断面



1トレンチ　土層柱状図

出土遺物

出土遺物

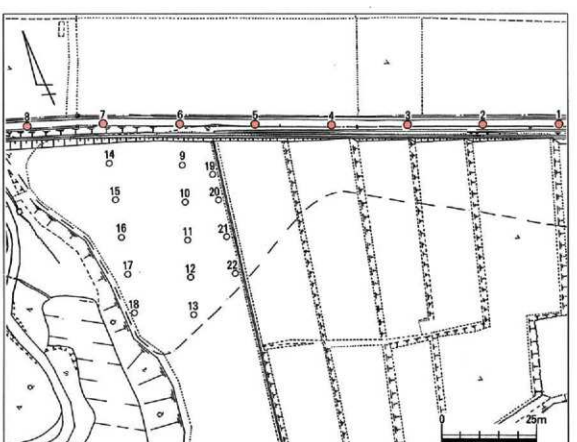
図版8　清六清水遺跡

5.新田遺跡

調査方法　農道改良工事に伴う立合調査と、林業構造改善事業に係る試掘調査である。農道改良予定範囲にナンバー杭を基準に2×2mのテストピットを20m間隔に8箇所（1調査区）、林業構造改善事業予定地に2×2mのテストピットを5～20m間隔に14箇所（2調査区）設定し地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。また、遺構・遺物が検出された区域は調査面積を拡張し記録保存にあたった。

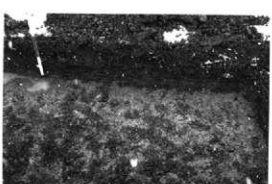
調査結果　1調査区では客土や削平が認められることから、旧道造成に伴うものと考えられ、特に杭No.1～4では客土層直下に地山層が確認された。また、特に杭No.5～8にかけては旧表土層と思われる黒褐色の土質が認められ、地山層には幅約50～60cm、深さ約20～30cmに達する灰褐色土の溝状の遺構が確認された。本遺構は全グリットで確認されNo.4ではすり鉢片が、No.6では素焼きの土器底部片が出土した。2調査区では土層の堆積は一定していないもののTP16で明茶褐色土層において拳大から人頭大の礫がまとまって検出された。

調査所見　1調査区の溝状遺構はNo.1～8の全グリットで確認されたことから、全長100mを越す溝と推定されるが、落ち込みも浅く覆土の上面が凹状を呈しビニールが混じる。No.6グリットから土器片が出土したため2×6mと拡張し遺物・遺構の検出にあたったが溝以外のものは確認されなかった。以上のことから、この溝は旧道に伴うものと考えられ、素焼きの土器も摩滅が著しく周辺からの流れ込みと思われる。2調査区では出土遺物はなかったものの密集した礫が検出されたため、開発範囲が明確になった段階で再び試掘調査が必要である。

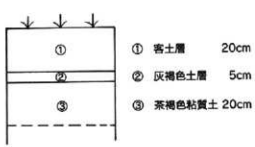


第9図　新田遺跡概要図

遺構検出状況



土層断面



TP6 土層柱状図

出土遺物

図版9 新田遺跡

6.歌丸館跡

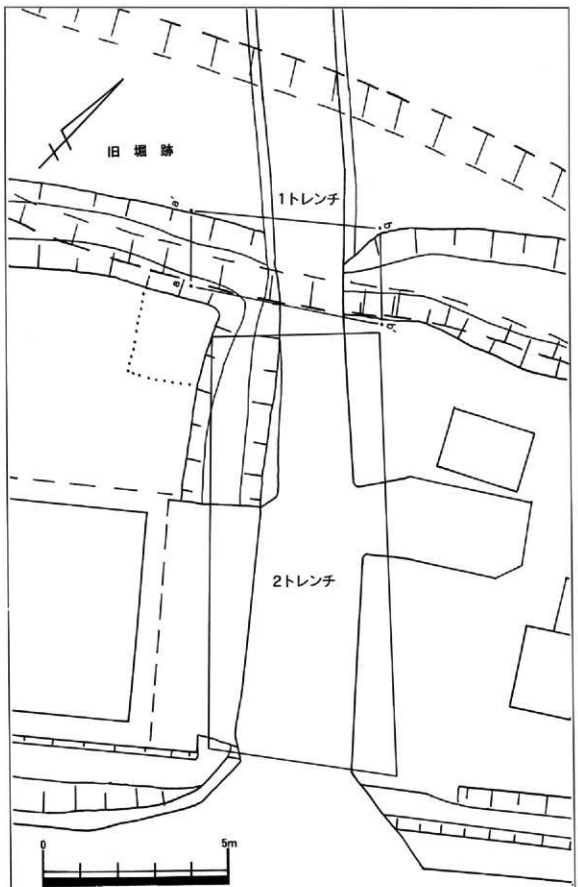
調査方法　まちなみ整備事業に伴う立会い調査である。道路改良に係る橋の基礎範囲に沿って５×２ｍ（１トレンチ）深さ１ｍにわたり深掘りし遺物・遺構の検出にあたると同時に調査区の南と北の土層断面の精査・実測図の作成にあたった。また、道路改良区域について幅約５ｍ、長さ11ｍ（２トレンチ）の範囲を地山層まで掘り下げ遺物・遺構の検出にあたった。

調査結果　１トレンチでは北壁において複数の堀の切り合い関係が確認された。すなわち現在の堀に断ち切られるかたちで落込みの断面が、また南壁でも現在の堀に切られた落込みの土層断面を確認した。２トレンチでは東西方向に連なる暗青灰色土の遺構を確認した。

調査所見　１トレンチの西側に水道管入れ替えに伴う埋設溝が掘られていて、その溝の断面に地山層を掘り込んだ遺構を確認した。遺構の堆積土層は凹地特有の凹レンズ状を呈し、１トレンチの南北壁面で確認された現在の堀の下位に位置する落込みの底部の土質と極めて近似する。さらに１トレンチと埋設溝で確認された落込みの上場と下場の位置を平面図に投影すると幅５～６ｍ、深さ１ｍに達し規模も範囲も現存する堀跡と異なった溝状遺構の存在が予想される。

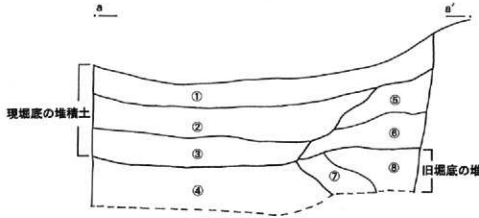
歌丸館がいつ頃から現在の形状になったかを推測してみると、１トレンチにおいて付け代えられる橋の基礎に昭和６年６月の銘が確認された。さらに明治８年の地籍図において現在の地形図と比較した場合、環濠の範囲は現在とほぼ同様の位置にあったと考えられる。以上のことから、歌丸館は少なくとも昭和６年の道路改良で小規模な工事が、また明治８年以前には旧堀跡を埋める大規模な工事が行われたと推測される。

第10図　歌丸館概要図



第11図　調査概要図

1トレンチ　南壁



① 茶 褐 色 土　現堀の最上位の堆積土。

② 灰茶褐色土　粘性を帯びしまりがあり、かたい土質。

③ 茶 褐 色 土　砂粒を多く含み、しまりの弱い土質。現堀の最下位の堆積土。

④ 青 灰 色 土　粘性が強く、かたくしまった土質。地山層。

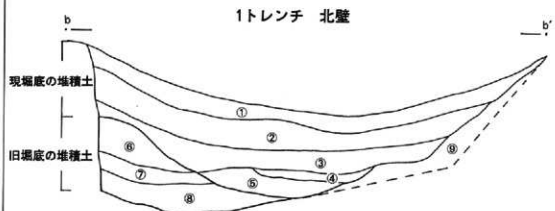
⑤ 暗茶褐色土　旧堀跡の最上位の堆積土。

⑥ 暗茶褐色土　拳大の礫を多く含む。

⑦ 灰褐色粘土　粘性に富み、かたくしまった粘土。

⑧ 黒 褐 色 土　旧堀跡の堆積土。

1トレンチ　北壁



① 暗 茶 褐 色 土　現堀の最上位の堆積土。

② 茶 褐 色 土　粒子の細かい土質で、しまりが弱い。

③ 暗 茶 褐 色 土　粘性を帯び、しまりのある土質。

④ 茶褐色砂礫層　指頭大の礫を多く含む。

⑤ 暗 青 灰 色 土　かたくしまった粘土層。

⑥ 暗 青 灰 色 土　ブロック状に橙色土を含む粘土。

⑦ 灰 褐 色 土　かたくしまった粘質土。

⑧ 暗 灰 褐 色 砂 礫 層　拳大の礫を多く含み、しまりが弱い砂の層。

⑨ 黄 褐 色 粘 土　地山層。

第12図　堀跡土層断面図

調査区近景

旧堀跡検出状景

旧堀跡土層断面

図版10　歌丸館跡

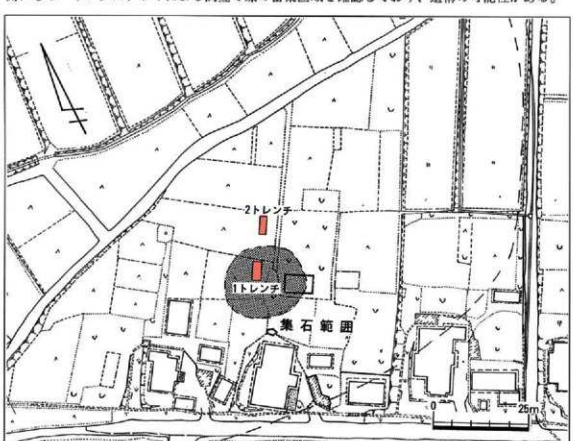
Ⅲ　遺跡台帳整備に係る調査

7.長者原遺跡

調査方法　遺跡台帳整備に伴う試掘調査である。昨年度の試掘調査で集石を検出したため、その性格と範囲を把握するため2×5mのトレンチ（1トレンチ）を設定し地山層まで掘り下げ遺物・遺構の検出にあたった。また、1トレンチの北側にある同規模のトレンチ（2トレンチ）を設定し地山層まで掘り下げ遺物・遺構の検出にあたった。

調査結果　1トレンチでは耕作土直下の黒褐色土中位から礫が検出された。礫の層序を確認するためトレンチ北側を幅1mにわたり深掘りしたところ厚さ30cmにわたり礫の堆積が確認され、礫層低部は褐色の地山層に達している。2層黒褐色土より土器片が出土した。2トレンチの土層は4枚の層に分かれ、深さ70cmで地山に達する。3層黒褐色土上位から縄文土器片が出土したが遺構・遺物は検出されなかった。

調査所見　本遺跡で問題になるのは、集石が遺構としてとらえられるのか否かである。堆積状況を観察すると、礫は全て花崗岩の自然石で上位は拳大のものが多く下位には人頭大から直径50～60cmの稜を有する礫が多く、礫層の深さ3割程度が褐色地山層に達している。耕作土と地山層の中間に位置する黒褐色土においても、耕作や開発に係る撹乱も認められず自然堆積を呈することから、後世の石塚にはあたらないと思われる。また、出土遺物も少なく礫の検出状況にも規則性は見られないものの、花崗岩の自然石を用いている。特定の形態をもたない密集礫という点で、長者屋敷遺跡検出された集石と共通がある。さらに本遺跡の人家を隔てた西側にもボーリングステッキによる調査で礫の密集区域を確認しており、遺構の可能性がある。



第13図　長者原遺跡概要図

遺跡近景

集石検出状況

集石深掘状況

2トレンチ　全景

出土遺物

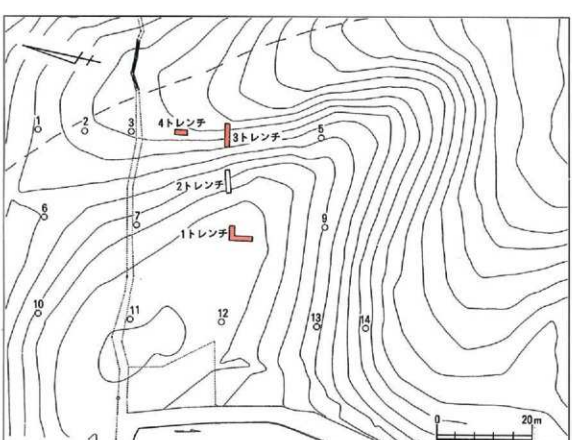
図版11　長者原遺跡

8.東峯山遺跡

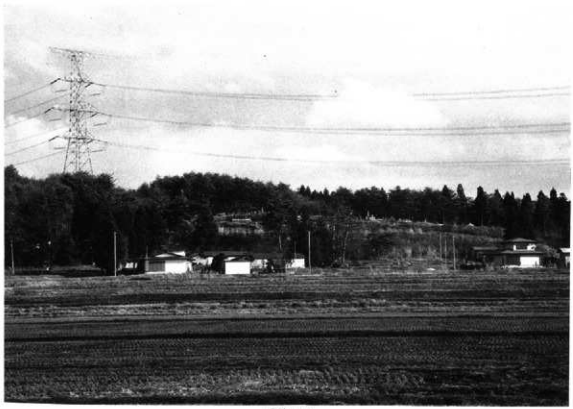
調査方法　遺跡台帳整備の目的から調査した遺跡である。本遺跡は河井山丘陵の一郭に含まれ、東西に走る沢で独立した丘陵となり、西半分は河井地区の共同墓地となっているが他は山林である。周辺一帯は墓地造成における道路や区画された墓域となっており各所に地山が露呈しているため、表面踏査を行った。また、山林の平坦地から緩斜面にかけて１×１ｍのテストピット１４箇所を１０～２０ｍ間隔に設定し、地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。さらに遺物が出土したテストピットは拡張し地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果　表面踏査では丘陵南西端の墓地造成区域から剥片を採集した。試掘調査ではＴＰ４から素焼きの土器片が、ＴＰ８を拡張した１トレンチで３層暗茶褐色土上位から剥片が、４トレンチからは剥片、素焼きの土器片、須恵器片がそれぞれ出土した。

調査所見　試掘調査と踏査で得られた剥片は、河井山で出土した資料に近似することから旧石器時代の所産と考えられる。ＴＰ４、４トレンチ出土の素焼きの土器は赤焼き土器に類似するが内側に刷毛目が観察され、奈良・平安時代の土師器である。本遺跡は旧石器・奈良・平安時代の複合遺跡と推測されるが、１トレンチを除くと他はいずれも傾斜地における土の流れの土層から出土したものと考えられ、各時期の遺物が帰属する包含層や遺構は未発見である。また、墓地造成区域に剥片が散布することから共同墓地全域が遺跡の範囲に含まれ、河井山における旧石器時代の集落の存在が標高２２０ｍラインまで引き下げられたことになる。河井山山頂には古墳郡や旧石器時代の集落が存在しており、本遺跡との係わりが注目される。

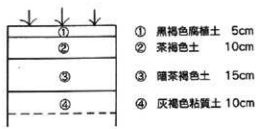


第14図　東峯山遺跡概要図



遺跡遠景

1トレンチ　全景



1トレンチ　土層柱状図

1トレンチ　土層断面

出土遺物

図版12　東峯山遺跡

9.蛇崩(じゃくずれ)遺跡

調査方法　素焼きの土器が大量に出土したとの連絡を受けたため、現地踏査をしたところ丘陵斜面の造成区域一帯に須恵器片の散布が見られた。遺跡台帳整備の目的から遺物の散布する範囲を中心に1×1mのテストピットを10m間隔に45箇所設定し、地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。また、耕作地のなかで周囲の地表面と異なった土色を呈する場所が見られ、遺構の存在も予想されるため1×4mのトレンチを設定し遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果　調査区南東側のグリットでは表土層の堆積が浅く、反対に西側のグリットでは地山層までの土層堆積が厚く客土も確認された。遺物は主に丘陵裾野部分のグリットから須恵器片が出土し、TP22・23では茶褐色の客土と灰黒褐色土の境目から遺物が出土した。さらにトレンチでは赤褐色の焼土や自然釉のかかった須恵器片が重なった状態で検出されたため、精査したところ幅約1mの遺構を確認した。

調査所見　トレンチで確認された焼土遺構は、土層断面の観察から砂混じりの熱を受けたかたい土質で、遺構底部の両端から立ち上がりが見られる。幅は約80cmで遺構底部は焼土や炭化物で覆われ、須恵器片が敷き詰められた状態で見られる箇所もある。斜面においても東西9m、南北1.5mの範囲で周辺の表土と異なった土色を確認できることから、本遺構は登窯跡と考えられる。また、丘陵裾野から須恵器が多く土出しており灰原と推測される。これまで今泉から河井地区にかけての丘陵斜面から須恵器の窯跡が数カ所知られていたが、本窯跡もそれらの一群に属するもので、本区域には広範囲にわたり古窯跡群の存在が予想される。

第15図　蛇崩遺跡概要図

遺跡近景

調査区近景

図版13　蛇崩遺跡

1トレンチ　全景

遺構土層断面

図版14　蛇崩遺跡

採集遺物

1トレンチ　出土遺物

図版15　蛇崩遺跡

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさほうこくしょ
書名	市内遺跡発掘調査報告書
副書名	三嶋遺跡の調査、長者屋敷遺跡の調査、清六清水遺跡の調査、蛇崩遺跡の調査、他
巻次	
シリーズ名	山形県長井市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第15集
編著者名	岩崎義信
編集機関	長井市教育委員会
所在地	〒993　山形県長井市ままの上5番1号　TEL0238-84-2111
発行年月日	西暦1998年3月31日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号（長井市番号）	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
三嶋（みしま）	山形県長井市（やまがたけんながいし） 成田字三嶋（なりたあざみしま）	6209	42	38度 07分 15秒	140度 02分 19秒	1997.12.18 ～ 1997.12.19	38m²	下水道整備に伴う試掘調査
長者屋敷（ちょうじゃやしき）	山形県長井市（やまがたけんながいし） 草岡字長者屋敷（くさおかあざちょうじゃやしき）	6209	81	38度 08分 08秒	140度 00分 10秒	1997.11.25 ～ 1997.11.27	70m²	市道改良に伴う試掘調査
清六清水（せいろくしみず）	山形県長井市（やまがたけんながいし） 今泉字山田（いまいずみあざやまだ）	6209	121	38度 03分 07秒	140度 03分 30秒	1997.05.15 ～ 1997.05.16	20m²	民間開発社屋造成
蛇崩（じゃくずれ）	山形県長井市（やまがたけんながいし） 河井字蛇崩（かわいあざじゃくずれ）	6209	116	38度 03分 42秒	140度 03分 24秒	1997.12.08 ～ 1997.12.09	50m²	遺跡台帳整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三嶋	集落跡	縄文前期前葉	住居跡	縄文土器 石匙	大木1式土器 一括資料出土
長者屋敷	集落跡	縄文土器	土坑、集石 ピット	縄文土器 石篦	
清六清水	集落跡	平安時代前葉		土師器 須恵器	
蛇崩	窯跡	平安時代	登窯跡	須恵器	

長井市埋蔵文化財調査報告書第15集
市内遺跡発掘調査報告書(6)

平成10年3月10日印刷
平成10年3月31日発行

発行　長井市教育委員会
山形県長井市まの上5番1号
TEL0238(84)2111

印刷　㈱サンノー企画印刷
山形県長井市幸町7番17号